



パソコン操作の練習です！
好きな音楽を
CDにコピーしています！



目次

- ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 71」
～レンタルしたCDをパソコンでコピーしよう～ <2～4ページ>
- ・ものもらっくまるちもらっく No.67 <5ページ>
- ・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記 (編集部) <6ページ>

～レンタルしたCDをパソコンでコピーしよう～

●わたげでの様子

小宮さんは午前2回、午後2回作業を行っています。作業の種類は多く、釣り具の作製、菓子箱などの仕切り折り、自動車のネジの入った袋をホチキスで留める作業、またケーブルのカット、ピーラーのケーブル皮剥きなどさまざま。細かい作業が得意で完成品を綺麗に並べるなど几帳面な様子です。

作業のやりかたをお伝えする方法として、職員が作業を行っている様子を本人にお見せし、実際本人に作業をしてもらい、作業のコツや注意点を手添えや指差しでお伝えしています。自立して行う事ができるまで職員が付き添っています。

作業中に注意箇所を振り返る事ができるように写真を机の上に提示しています。

作業の伝達の他に忘年会や健康診断のスケジュール、本人にお伝えする事柄については文章と写真でお伝えしています。漢字を読む事ができます。



●目標を持って作業を行っています

作業の報酬としての給料の他に、職員と近隣のCDレンタルショップに行きます。目標を持って作業を行えるよう出来高表を使っています。作業の1回ごとに目標値を設定し、目標を超えた場合、出来高表に職員のサインを二つ。目標を超える事ができなかった場合、サインを一つ。出来高表の欄にすべてサインで埋まると、CDを借りに行く流れです。借りたCDは職員が空のCDにコピーをしてご本人にお渡ししています。そのCDの音楽を聴きながら作業を行っており、鼻歌まじりで作業を行う事もしばしば。また、新しいCDを聴く事ができる事その他、レンタルショップへ出かける事も楽しみ

の様子です。入店すると目当てのCDの棚まで行き、CDを取り出して眺めてからまた戻す様子もあり、借りるCDを吟味しています。CDを借りる他にもポスターや商品を見ては止まり、楽しそうです。

●パソコンを使ってCDをコピーする取り組み

ご自宅でパソコンを操作でき YOUTUBE で動画を見ているなどパソコンの操作が多少できるとのご家庭からのお話をもとに、今まで職員が行っていたCDのコピー作業をご本人ができるよう取り組みました。

自分でCDをコピーできるようになるため、パソコンの操作方法を文章と写真入りの手順書を提示し、職員がパソコンを操作する様子をお見せする事でお伝えしました。職員が説明をしながら本人に操作をしてもらったところ、「クリックしてください」との職員の声かけには本人の反応は薄く、職員が手添えでマウスを操作しました。また、ドラッグ&ドロップ時も職員が手添えする事でコピーの作業を終えました。本人がマウスの操作ができない理由は、活動の目的など、内容が伝わっていないためか、手順書自体が本人にとってわかりづらいものなのか。それとも別の理由があるのか・・・。

約1ヶ月後出来高表がすべて埋まり、2回目のCDコピー操作をご本人と一緒に行いました。職員は前回使った手順書を本人に差し出し、様子を観察。本人は手順書へ視線を向ける事なく、職員を呼びました。手順書を見て操作を行うのではなく、職員に直接教えてほしいようです。操作と手順書を照らし合わせながら操作をお伝えしましたが、ご本人はパソコンの画面に集中し、手順書への意識は薄いようです。また1回目のパソコンの操作と同じく、マウスのカーソルの操作での「クリックしてください」との声掛けには反応が薄く、クリック時に「カチっとして見て」との声かけでクリックをする様子がありました。

●2回の取り組みからわかった事

1. パソコンの操作動作と言葉を一致する必要性

ご家庭でパソコンを操作しているとお話でしたが、取り組み中は職員の声掛けに反応が薄く、マウスの操作ができませんでした。操作方法がわからないのではなく、パソコンの専門用語の「クリック」「ドラッグ&ドロップ」の用語とマウスの操作行動が一致していないのではないかと仮説を立てました。用語と操作が結びつかないため何をすべきかわからないのではないかと・・・小宮さんがこれらの用語と操作を一致できるように取り組む事、「ドラッグ&ドロップ」の操作ができるよう練習する必要があります。



2. 手順書を頼りに操作をしてもらいたい

普段、新しい作業を行う際には、ご本人が自立して行うまで付き添って作業方法をお伝えしています。パソコンの操作も職員を呼ぶ事があり、新しい作業を行う時のように自立できるまで職員に教えてもらいたいのだと思います。毎日コピーの作業をするならば、繰り返し行う事で手順を覚える事ができ、自立して行う事ができるようになるかもしれません。しかし、CDのコピー操作は1ヶ月間間隔が空いてしまうため、パソコンの操作をすべて覚える事は難しそうです。コピー操作中は手順書とパソコンの画面を照らし合わせながら操作をする必要があります。手順書を頼りに操作ができるように、長い文章の説明と写真の手順書から、写真をメインに短い言葉でできたパッと見てわかるような手順書に作り変えました(左写真)。具体的には操作手順ごとにパソコンの画面を添付。マウス操作の箇所を赤い○や矢印を表記。文章は「クリックします」「ドラッグします」など短い言葉のみです。



また、マウス操作のイラストにはクリックとドラッグ&ドロップを分けて表示しています。コピーソフトの起動もご本人が行います。このソフトは「windows media player」という名前です。英語表記のため、起動のアイコンの表示を「おんがく」とわかりやすい言葉に変更しました。手順書が4ページとなったため、操作する際に瞬時に見る事ができるよう机正面に掲示しました。また、パソコン操作の時以外の時間帯でも見る事ができるよう、常時掲示しています。

●取り組みの変更後

1. 「クリック」と「ドラッグ&ドロップ」の練習では

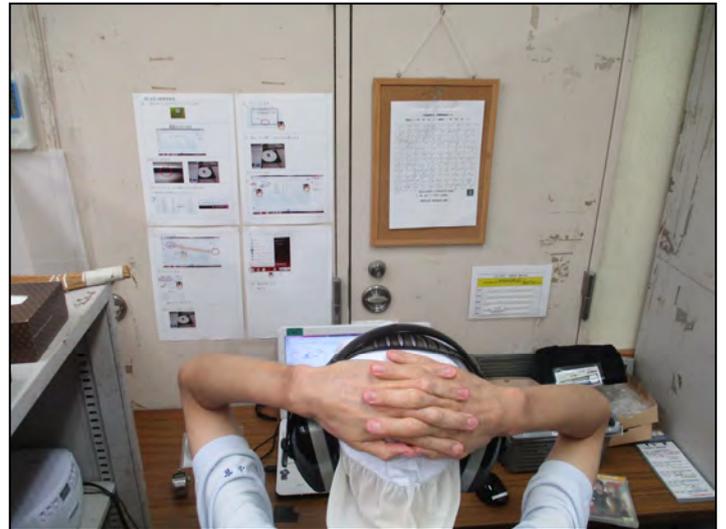


練習ソフトでの「クリック」の練習は動物の絵をクリックしたら色が変わるもの。「ドラッグ&ドロップ」の練習では、バラバラになったパズルのピースをドラッグしてパズル枠にドロップするものです（左写真）。クリックの練習では初日からスムーズに行う事ができました。「ドラッグ&ドロップ」の練習ではクリックした状態のままマウスを動かさず操作をする経験がない様子でした。そのため、はじめは職員が手添えて操作方法をお伝えしました。毎日練習した結果、自立して操作を行う事ができるようになりました。

マウスの操作方法の理解の他にパソコン用語と操作を一致できるように、活動を始める前に「クリックの練習です」や「ドラッグ&ドロップの練習うまくなりましたね」等言葉かけを意識しました。小宮さんから「ドラッグ&ドロップの練習しまーす」など発言があり、用語と操作の一致はできたようです。

2. 手順書を一新して取り組む

手順書を見れば操作方法を本人が理解できるはずとの推測のもとに、言葉かけはせず手順毎に手順書の欄を指差し、どの操作するかをお伝えしました。具体的には行う操作を手順書の欄とパソコンの画面を指差して伝達。その手順で書かれた「クリック」など用語を指差しでお伝えしました。前回から大きく変わって、自らマウスを操作しカーソルをあわせクリックを自分でできるようになりました。パソコン用語と操作の一致ができるようになったため、手順書の内容も理解できるようになったからと推測しています。新たな取り組み後、一手順の操作が終わると、手順書の次の手順へと目線が行く事もあり、手順書を頼りにしているようです。操作時に止まって考えているような場面がある際には、その手順書がわかりづらいものと評価し、その都度、手順の表記を作り変えています。操作以外にも CD の書き込みを終えるまでに待つ必要があります。その際にマウスを動かさず事がありました。どのくらいの間待つかを知るための目安が必要です。CD に書き込みを終えるまでにかかる時間をゲージや終了までの%表示があったため、それを手順書に表記しお伝えをしました。その結果、書き終えるまで待つことができるようになりました。



新たに取り組んだ結果、手順書を頼りに操作を自分で進めることができるようになりました。職員を呼ぶ事がありますが、それは今行っている操作が合っているかの確認のようで、本人には「大丈夫です」や「あっています」との声かけで次の手順に移る事ができています。

今回の取り組みにより言葉と行動の一致する重要性を学びました。日常の会話の中で言葉を言い換えながら話をしているのは、相手に一致してもらおう事を意識せず行っているんだなとも思いました。支援においてもその利用者が分かる言葉で伝える事で、より深いコミュニケーションができるのだろうと思いますし、初めて行う活動をお伝えする場面では、どの言葉が伝わりやすいかを念頭に置いて支援する事で、その利用者の上達に大きく影響するのだろうと思いました。

ものもらつくまるちもらっく

No.67

8月26日～9月27日、神奈川県立保健福祉大学の学生一名が、当法人の生活介護事業所ふぁずとわたげにて、ソーシャルワーク実習を行いました。

ふぁずやわたげの作業室での利用者みなさまとの関わり、作業準備や記録の他、地域に出て活動する浴場清掃への参加、個別面談への同席、利用者が初めて行う活動プログラムを作成し、写真やイラスト・文字・動画等を活用して利用者に説明、一緒に活動を行い、評価を基にプログラムを修正し、再実施する等の体験を通して、ソーシャルワークの役割や機能を学ぶ実習となるよう機会を提供しました。

上記のような体験を通して、言語以外のご本人の様子からも多くの情報を得られる。障害特性を理解するだけでなく、ひとりひとりの事を知る努力をする。行動の背景にある理由を常に探る。支援がうまくいかない時、それが出来ない人と考えるのではなく、自分の支援方法に何か改善点があるのではないかと考える。施設で身に付けた生活スキルや社会性は施設で完結するものでなく、家庭や社会に繋がり、その人の生活の豊かさに繋がる。そしてそれらを支える支援のすべてがソーシャルワーカーの役割なのではないか等、日々の振り返りや実習記録の中で、たくさんの学びがあった事を、実習生は伝えてくれました。

また、利用者の方々も、実習初日から、材料がほしい等のコミュニケーションカードを職員にするように渡したり、名前を呼んだり、実習生に関わろうとする様子が多々見られました。職員はもちろん、利用者みなさまにも良い刺激になっているように伺えました。実習にご協力いただきました利用者みなさま、ご家族に、この場を借りて感謝申し上げます。

23日間の実習お疲れ様でした。今後の活躍をお祈りいたします！！



たんぼぼの郷後援会のご案内

たんぼぼの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぼぼの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぼぼの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぼぼの郷後援会

☆☆

ボランティアさん 募集中

**わたげ・ふあず・こっとなはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？
作業の検品、余暇活動の支援、清掃等、お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！**

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:いまうじ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふあず 電話:046-854-5004 (担当:いしい)

E-mail: faz2022@themis.ocn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:ひがしがわ)

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp

☆☆

～編集後記～

皆様、お元気でお過ごしでしょうか。暑い夏がようやく終わり、秋の訪れを感じる時期になりました。わたげでもお魚が大好きな利用者さんが「サンマ」とお話をされ、サンマが出てくる季節だなと教えて頂きました。そこから私の頭の中はサンマー色となり、夕飯のメニューが決まりました。頂いたばかりのスダチもある！と思い、初めてポン酢を手作りしました。身近な食材でこんなにおいしいものが出来た喜びで、秋のサンマをいただきました。



横須賀の美味しいものをこれからも発見していきたいと思います。
朝夕冷え込みが激しくなる季節、お体ご自愛下さい。 (ニッ森)

社会福祉法人 横須賀たんぼぼの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21
TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp